

新型コロナウイルス感染拡大防止予防ガイドライン研修会質問事項

No	質問事項	回答
1	受付時の観客の検温を円滑に行う（渋滞しない）ための留意点。（効率的な検温位置や機材の配置、ハンド式・固定式の留意点等）	来場予定人数や窓口での検温設備によりますが、受付窓口で混雑が発生しないように、開場～開演までの時間を長めにとるとともに、可能であれば（ハンド式ではなく）滞留ができていくサーモカメラ等を用いて滞留ができないように検温を行う。
2	検温の際、入場をご遠慮願う体温は？ その医学的な根拠は？（境界値の判断 Ex） 37.0℃～37.5℃は可 でも37.6℃は×）	感染の当初は検温の目安として37.5℃が示され、公文協のガイドラインにも明示していましたが、昨秋の改定時に（専門家との調整の上で）外した経緯があります。とはいえ、入場時に一定の目安は必要になるので、平熱より高い場合は複数回の検温を行い、それでも著しく高い場合はご遠慮願うのが妥当がと思われます（その際の目安として、37.5℃を用いることは問題ないと考えます）。
3	事前体温測定依頼をした時の検温の必要性。	受付時の検温での判断だけではなく、個々人が自分の平熱を把握することにより、体調管理に努めることが求められます。公演当日の朝にも自宅で検温いただき来場するかの判断にさせていただけるように呼びかけていただけますでしょうか。
4	会場の入場定員が解除されている場合のコロナ対策。	まん延防止等の指定地域でなければ、ガイドラインの通り最大100%の入場が可能となりますが、当日の入場総定数が分かるようでしたら可能な範囲で市松模様等で空席を開けるなど余裕を持った席配置の工夫が求められます。
5	密対策のCO2センサーの有効性。	劇場の舞台上や客席に置いては、換気設備を適切に運用していれば、マイクロ飛沫の感染リスクは高くはありません。広い会場内だとセンサーの計測場所により一時的な空気の滞留もあり、使用の仕方が難しい場合もあります。 楽屋等の限られた空間でCO2センサーを用いて、定員と換気をモニターすることは有効です。
6	チラシ、チケット、アンケート、電話番号・氏名等の配布、回収に伴うコロナ感染の可能性はどのくらいか、また付着したウイルスの死滅するまでの時間や日数。	通常、ウイルスは72時間ほどで死滅します。接触感染を防ぐために物品の取扱いの前後に手指消毒することにより、リスクを軽減することが可能です。
7	ご来場のお客様から集める情報としては、こういった項目が必要か。	来場者等から感染者が発生した際に保健所から他の来場者に連絡ができるように氏名や電話番号等が必要になります。全員の把握が難しくければ、代表等の方から連絡がつけば代替可能です。
8	感染対策の注意喚起のため、印刷物、貼紙、ステージからの呼びかけなど、ご来場のお客様へアプローチしているが、他に考えられる手段としてはどのようなものがあるか。	他にはホームページでの掲載がありますが、今回の芸術祭の場合、出演者等のお知り合いが来場される場合も多いと想定されますので、口コミでの周知も有効かと思われます。
9	日々変化している感染者の数に、我々はどのような場合は、中止もしくは催行決定した方が良いかの線引的な数値等があれば教えていただきたい。	目安としては、自治体の緊急事態宣言等がありますが、開催主催者と施設管理者との協議（中止の場合の負担等も含め）により判断かと想定されます。
10	一般入場者の名前と連絡先をチケットに記入してもらうことはできるが、最初から最後までいる方だけでなく、途中で入退場する人も多く、一つの座席が入れ替わり、座った座席まで特定して記録することが難しいがどのようにしたらよいか。	客席のエリアを参加団体やその関係観客ごとにエリア分けするなども想定されます。あくまでも7に記載の通り、感染者が発生した場合に濃厚接触者を追跡するための連絡先や座席位置の把握なので、可能な範囲でそのための工夫が求められます。国や自治体の接触通知アプリの活用も一案です。
11	窓がない楽屋が多く、外気が入れられない場合はどうすればよいか。	入口ドアを開放したり、扇風機等で入り口から外気を送り込むことが考えられます。また、楽屋の定員を制限する方法もあります。
12	効果的な換気の方法を教えていただきたい。	場所ごとで備え付けの機械換気を適切に運用し、可能な範囲で窓等を開放して自然換気も併用することが求められます。
13	地上の会場と地下の会場で換気の方法は異なるものなのかどうか教えていただきたい。	
14	会場に消毒スプレーを散布する場合、どのように行えば効果的か教えていただきたい。	接触感染を防止するためにテーブルや手すり等を消毒することは有効ですが、広い会場内に空中散布することの効果は低いと思われます。

新型コロナウイルス感染拡大防止予防ガイドライン研修会質問事項

No	質問事項	回 答
15	会場に入る前の、お客様に対する感染予防の促しとして、マスクの着用、手指消毒、検温以外に他の予防対策があれば教えていただきたい。	会話の抑制と密にならないようにエリアごとの入退場が求められます。
16	会場のトイレ周辺での感染予防として特に配慮すべきことはあるかどうか教えていただきたい。	密にならないような整列、手指消毒用のポンプ式消毒薬の設置、個人のハンカチ等の使用などがあげられます。
17	会場が盛岡市民文化ホールの場合、検温はどこでどんな形で行えばよいか。	施設の入り口か、公演会場の入り口が想定されます。
18	消毒液はどこに配置することが効果的か。	出演者等関係者用と来場者用でそれぞれの導線から検討ください。施設や会場の出入り口、楽屋、舞台袖、トイレ等が想定されます。
19	客席は前後左右開けることで十分か。	収容人数と来場総定数から可能な範囲でソーシャルディスタンスを確保ください。また、舞台上から最低2Mの確保をお願いします。
20	500人程度の入場者の場合、会場の換気はステージ（20分程度）間に1回10分程度でよいか。	基本的には施設の機械空調設備を適切に運用ください。また、プログラム進行を勘案して、可能な範囲で休憩等を入れて、ドアを開放ください。
21	換気は入り口を開放する方法でよいか。	基本的には施設の機械空調設備が適切に運用されてれば、会場客席のマイクロ飛沫の感染リスクは高くはありません。可能な範囲で、入り口を開放して自然換気を併用ください。
22	感染者が出た場合の対応の仕方はどうすればよいか。	まずは、感染者を隔離するための部屋を事前にご準備ください。できれば自然換気ができる部屋が望ましいです。併せて、感染者に触れる際の防護の手袋等の用具も用意ください。また、対応に当たる責任者を決めてください。そのうえで、発生した場合は保健所にご連絡の上、指示に従ってください。
23	換気方法について、1時間に1回15分～20分と言われたが、何か対策はないものか。 舞台での限られた時間の中で、速やかな進行方法に取り組みたい。換気しなくても良いとされている会館もあるようだが。	前記の通り、客席に置いては施設の機械空調設備を適切に運用いただければ必要な換気は保たれます。そのうえで、必要に応じて自然換気を行ってください。
24	小規模会場（定員30人程度）でライブコンサートを行う場合の対策や注意点は？（特にライブバーや飲食店で行う場合）	小劇場協議会やライブ関係団体でのガイドラインを参照ください。基本となる感染防止策を講じていただき、より換気や密にならないように配慮ください。また、飲食についてはできるだけお控えください。
25	ピアニストがどんどん入れ替わるが、その度に鍵盤の消毒をすることになるのか。	ピアノは既存の消毒液を頻繁に使用すると楽器が痛むため、専用の消毒剤で開場前や休憩中などに会館職員が消毒します。演奏者様には、演奏前の手指消毒と十分な乾燥をお願いしております。
26	ピアノの消毒は「会館職員が行う」ということになってるが、職員は付いてもらえるのか。	演奏会や発表会など、本番が伴う催事に関しては上記の通り職員が付き鍵盤消毒等行っておりますが、練習でのご使用等職員の立ち合いが無い場合は、ピアノ設置前後で行っております。
27	検温器は会場で貸与してくれるのか。	サーモカメラ、非接触体温計の貸出がございますが、数に限りがありますので、事前にお問い合わせください。
28	消毒器具は施設で準備してくれるのか。	机、椅子など備品用の消毒液入り消毒器具は準備しております。手指消毒用器具につきましては、各ホール入口に手指消毒液を設置しておりますが、その他につきましては、主催者様でご用意をお願いします。
29	空席への表示票は主催者が作成か。	ホール客席は、現在前後左右1席空けの表示をしております。現状のまま使用する場合には、そのままお使いいただけます。